

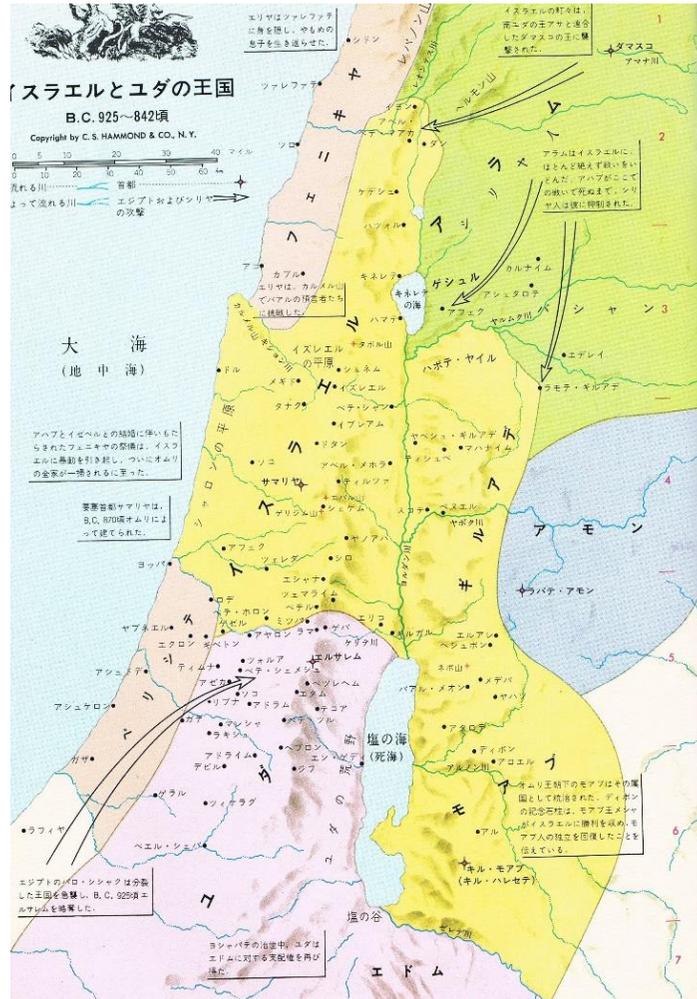
エリヤは出てきませんが、続けて20章を読んでいきます。

1. アラムに勝つ (15~21)

- ①油断 (15~17) 「彼らは真昼ごろ出陣した。そのとき、ベン・ハダデは味方の三二人の王たちと仮小屋で酒を飲んで酔っていた。諸国の首長に属する若い者たちが最初に出て行った。ベン・ハダデが人を遣わしてみると、「人々がサマリヤから出てきている」との報告を受けた。」アラムのベン・ハダデ王二世は自軍の方が圧倒的に勝っていると油断していました。時は正午。士気に満ちたイスラエル軍の若者達が出陣した時にも、アラム軍と協調する32人の王達と、仮小屋で酒を酌み交わし酔っていました。とても戦いに入る態勢ではありません。それでも、情報収集から得た報告によると、イスラエル軍がサマリヤを出陣したというものでした。
- ②生け捕りに (18) 「それで彼は言った、『和平のために出てきても、生けどりにし、戦うために出て来ても、生けどりにせよ。』」ベン・ハダデはこの期に及んでも、事態の危うさを理解していませんでした。そして気取って言うのでした。「奴らが和平のために出てきたとしたら、生け捕りにし、戦うために出てきても、生け捕りにせよ」。要するにアラム軍の方が優勢なのだから、負けるはずがないという誤った自信でありました。
- ③アラム軍の敗走 (19~21) 「町から出て来たのは、諸国の首長に属する若い者たちと、これに続く軍勢であった。彼らはおのおのその相手を打ったので、アラムは逃げ、イスラエル人は追った。アラムの王ベン・ハダデは馬に乗り、騎兵ちといっしょに、のがれた。イスラエルの王は出て来て、馬と戦車を分捕り、アラムを打って大損害を与えた。」サマリヤの町から出てきた、イスラエル諸国の若者たちは意気盛んでした。目標を定めて、相手に立ち向かい、打ちに勝ちました。戦意がないアラム軍は敗走。イスラエル軍はこれを追走します。ベン・ハダデ王は慌てて護衛の騎兵たちと、その場から馬で逃げるしかありませんでした。イスラエルのアハブ王も出て来て、馬や戦車を撃ち、アラム軍に大損害をもたらしました。

2. アラムの作戦 (22~25節)

- ①逆襲預言 (22) 「その後、あの預言者がイスラエルの王に近寄って来て言った。『さあ、奮い立って、これからはなすべきことをわきまえ知りなさい。来年の今ごろ、アラムの王があなたを攻めに上って来るから。』」あの預言者というのは、アラム王が力を誇示して、財産や家族の提供を言ってきたときに、アラムをあなたの手へ渡すと言った人です (13節)。その預言者がアハブを再度訪ねて、「奮い立って、これからはなすべきことをわきまえなさい。アラム王は来年逆襲して



くるから」と告げたのです。

②側近の助言(23)「そのころ、アラムの王の家来たちは王に言った。『彼らの神々は山の神です。だから、彼らは私たちより強いのです。しかしながら、私たちが平地で彼らと戦うなら、私たちの方がきっと彼らより強いでしょう。』」アラム王の側近たちの助言には、彼らの神観が現れ、イスラエルの民が信じてきた唯一神と対立します。彼らは山の神や低地の神があるというのです。彼らはアラムが前回敗戦したのは、山であり、イスラエルにとって有利であったとします。だから今回は、山ではなく、平地で戦うのが望ましく、そうすれば勝利するというものでした。

③アラムの戦略(25)「こういうようにしてください。王たちをそれぞれ、その地位から退かせ、彼らの代わりに総督を任命し、あなたは失っただけの軍勢と馬と戦車とをそれだけ補充してください。彼らは平地で戦うなら、きっと私たちのほうが彼らより強いでしょう。」彼は彼らの言うことを聞き入れて、そのようにした。」その助言は内部改革もありました。第一に士気を下げてきた王達を退かせ、新総督を任命すること。第二に失った兵士達、馬、戦車を補充することでした。アラムの軍勢の整備をして、平地戦にすれば、アラムは勝つでしょうというものでした。

3. イスラエルの勝利(26~30)

①二つの群れが(26~27)「翌年、ベン・ハダデはアラムを召集し、イスラエルと戦うために、アフェクに上って来た。一方、イスラエル人も召集され、糧食を受けて出て行き、彼らを迎えた。イスラエル人は彼らと向かい合って陣を敷いた。彼らは二つの群れのやぎのようであったが、アラムはその地に満ちていた。」ハダデは雪辱を果たすため、アラムの諸侯から兵士を集め、イスラエル南部のアフェクまでやって来ました。イスラエルも対抗して兵を集め、糧食を用意して彼らを迎えました。両陣営を俯瞰すると、まるで二つのヤギの群れが向かい合っているようでした。しかし、アラムの兵の数は圧倒的に勝っていました。

②神の人の預言(28)「ときに、ひとりの神の人が近づいて来て、イスラエルの王に言った。『主はこう仰せられる。(アラムが、主は山の神であって、低地の神ではない、と言っているのを、わたしはこのおびただしい大軍を全部あなたの手に渡す。それによって、あなたがたは、わたしこそ主であることを知るであろう。)]」そこに、あの預言者とは別の神の人が近づいて来て、アハブ王に言ったのです。それは、主のお言葉でした。つまり、アラムが主なる神について、間違っただけのことを言っている。そこで、アラムの大軍をアハブの手に渡すという内容でした。その目的は、アハブが主こそがまことの神であることを知るためでもあるというのでした。

③またもアラムは(29~30)「両軍は互いに向かい合って、七日間、陣を敷いていた。七日目になって、戦いを交えたが、イスラエル人は一日のうちにアラムの歩兵十万人を打ち殺した。生き残った者たちはアフェクの町に逃げたが、その二万七千人の残った者の上に城壁がくずれた。ベン・ハダデは逃げて町に入り、奥の間に入った。」戦いの過程はわかりませんが、イスラエルは10万のアラム軍を撃破しました。また、アフェクの町に逃げた2万7千人も城壁がくずれて、相当数が命を落としました。しかし、ハダデ王自身は町に逃げこんで九死に一生を得ました。

《結論》

今朝もエリヤが出てこない列王記第一からの学びです。前回、読んだように、この章を読んでいると、イスラエルのアハブ王が主なる神の側にいる人物のようによす思えます。それほどに、神の憐みはイスラエルとアハブに伸ばされていたのです。

確かめませんが、アハブ王は妻イゼベルと一緒にあって、偶像神バアルに魂をとらえられ、神が導いてくださったイスラエルの民にも、偶像信仰の影響を与えていました。そんなアハブに主なる神は、手を差し伸べてくださいました。それは、一つには神の民であるイスラエルに対する主の特別の思い計らいがあったからと言えましょう。

イスラエルの国とアハブ王を助けるために、主は預言者を送り、励ましと導きを示されました。また神の人を通して、主なる神のご意思をお示しくださいました。それらは、アラムがいかに勢力において勝っていても、イスラエルを勝たせるという預言でした。また、神々を奉じ、主なる神は低地においては勝利を与えることができないとした不信仰への対抗の御意志も示してくださいました。アハブやイスラエルの民は励まされたことでしょう。

そして、現実的にベン・ハダデの軍力の方が優勢であっても勝利はイスラエルにありました。まさに「千万人といえどもわれ往かん」の精神となった、イスラエル側の若者達が、アラムに立ち向かって勝利したのです。また、次の年にも、軍を整えてやってきたベン・ハダデの軍を撃破したのです。一騎当千のつわものたちを得て、イスラエルは主なる神のお言葉通りに勝利を与えていただいたのです。

それほどまでに、主はイスラエルの民を生かそうとしてくださいました。

その理由が語られています。「それによって、あなたがたは、わたしこそ主であることを知るであろう。」(28節) アハブとイスラエルの民が主なる神に立ち返り、主を主とすることを望んでおられたからなのです。預言者や勇気ある若者を備えることまでして、主は彼らの信仰の復活を促してくださいました。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたき。だれでも、わたし

の声を聞いて戸を開けるなら、わたしは彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もまたわたしとともに食事をする。」(黙示録 3章 20 節)とありますが、神は不信仰でバアル神にうつつを抜かしていたアハブの心に語りかけてくださったのです。おまえの心の戸をたたいているよとアハブに主は語ってくださっていたのです。

私たちにも、主は声をかけてくださっています。あなたの心の戸をたたいてくださるのです。神に立ち返りなさい。相手がいかに強くとも、大きくとも、勝てそうにないと思われる相手にも、意気阻喪してしまうような事態にも、神はともにあって助け導いてくださるのです。そして勝利させてくださるのです。心の戸をたたいてくださっている主の声を聞いて、それに応えて、心の中に主イエスをお迎えしようではありませんか。